

センターキャッチを

安全にご使用頂くために必ずお読み下さい

本文中のマークは、次の意味を表わします。
(マークの周辺に具体的な内容が描かれています。)



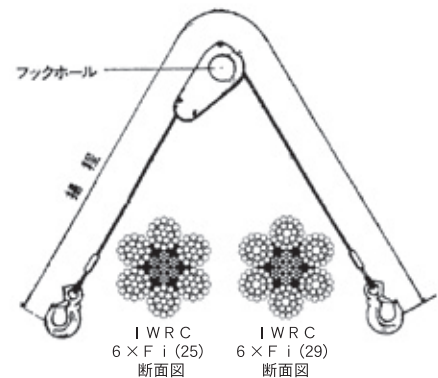
絶対に行ってはいけないことを表わすマークです。



必ず行って頂きたいことを表わすマークです。

センターキャッチは

1. センターキャッチ本体
2. 吊具部分としてセンターキャッチ専用ワイヤ I W R C 6 × F i (25) 又は、I W R C 6 × F i (29) J I S 規格を使用し、コース(シンプル)付き、圧縮止め加工及びフック等の端末加工で構成されております。

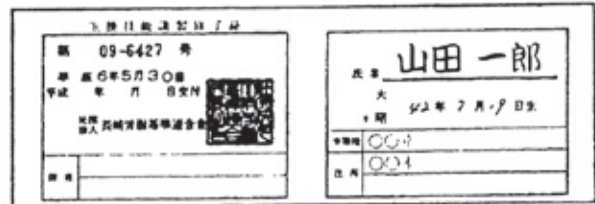


⚠ 危険

取り扱いを誤った場合、使用者が死亡、または重傷を負う危険が高いと考えられる場合。

◎センターキャッチは吊り方、吊り角度、安全率、使用荷重を確認の上選定下さい。

なお、玉掛作業は、有資格者が行うよう定められていますのでお守り下さい。



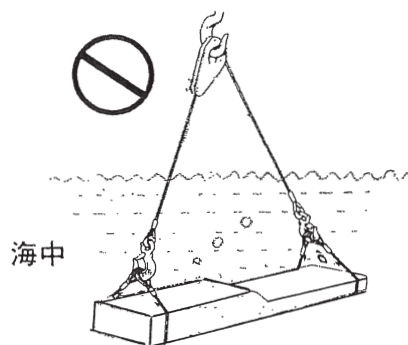
◎吊り角度は、出来るだけ60° 以内にして下さい。吊り角度が大きくなるとセンターキャッチのワイヤロープスリングに大きな張力がかかり危険です。

◎不均衡(アンバランス)が4:1を越えるワークを吊る場合は、荷の重いほうのワイヤロープスリングに、より大きな張力がかかるので、ランク上位のセンターキャッチ及びカプラーに変更して下さい。

⚠ 危険

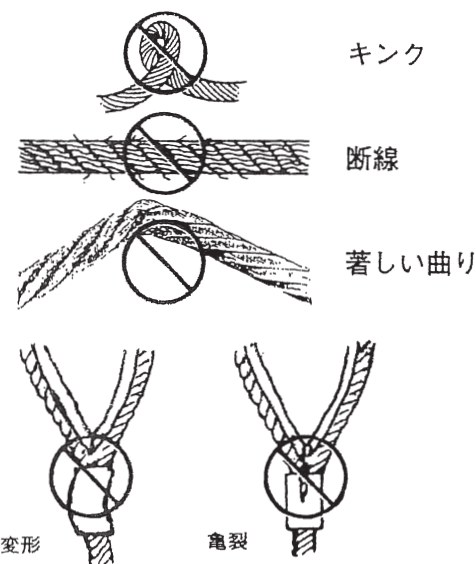
取り扱いを誤った場合、使用者が死亡、または重傷を負う危険が高いと考えられる場合。

- ◎アルミ合金で圧縮止めした吊具部品は、海中では使用しないで下さい。
アルミ合金が溶解してロープが抜ける恐れがあり大変危険です。



- ◎ロープのねじれや曲がりが発生したら、修正しキンクさせないようにして下さい。

- ◎センターキャッチのワイヤロープスリングの端末は、圧縮止めを施しているのですが、圧縮部の亀裂、変形、ロープのずれ、又は著しい傷などが発生しているものは、絶対使用しないで下さい。
破断事故等の原因となり大変危険です。



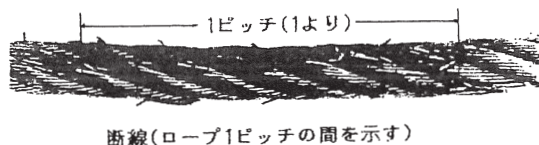
- ◎センターキャッチのワイヤロープスリングは、消耗品です。廃棄基準を超えたものは、絶対使用しないで下さい。強度が著しく低下しているので破断事故等の原因となり大変危険です。

- ◎ワイヤロープスリングの廃棄基準・更新基準は、その業種の管理・監督する各省庁により法的に決められていますので、日常点検の上、早めに取り替えて下さい。

(参考) 日本クレーン協会の「ワイヤロープの簡易点検」による断線廃棄基準。

- ①クラウン断線（山切れ）の場合、ロープ径（ d ）の6倍（約1ピッチ）及び30倍（約5ピッチ）の範囲内の断線数を数え、下記の断線数以上あれば破棄する。
- ②ニップ断線（谷切れ）の場合、一本でもあれば破棄する。

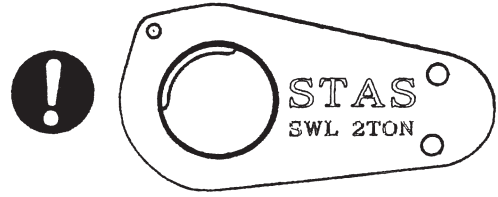
センターキャッチ使用のワイヤロープ構成は、IWRC6×Fi(25)又はIWRC6×Fi(29)にて、可視断線数および点検範囲は、 $6d-6$ 及び $30d-11$ なのでそれ以上は破棄する。



警告

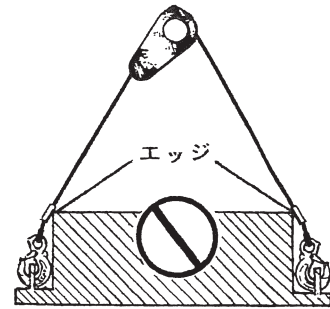
取り扱いを誤った場合、使用者が死亡、または重傷を負う危険が高いと考えられる場合。

◎メーカー等と相談し、用途や使用方法に適したセンターキャッチを選定し、使用して下さい。また、使用に際しては製品側面に刻印の安全荷重を必ず確認して下さい。

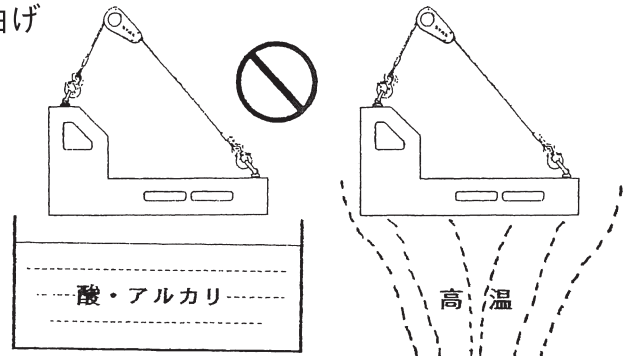


◎各種の規格、規則、基準等にしたがって使用して下さい。

◎センターキャッチの圧縮止めワイヤロープスリングの場合、締結部を吊り荷のエッジ等に当たらないようにして下さい。締結効果が低下し、抜ける恐れがあります。



◎ワイヤロープスリングを鋭い角で曲げないように、必要な場合は当て物をして下さい。又折り曲げたり、結んだりして使用しないで下さい。強度が著しく低下し危険です。



◎酸やアルカリの腐食雰囲気や100℃を越える高温雰囲気では、使用しないで下さい。腐食、熱影響等により、ワイヤロープスリングの強度が低下し危険です。

◎急激な衝撃荷重がかからないようにして下さい。



◎ワイヤロープスリングは、消耗品です。必ず保守点検及び日常点検、定期点検を実施し、損傷の程度を常に把握して使用して下さい。

点 検 項 目	点検の種類		点検方法
	日常	定期	
① 断 線	○	○	目 視
② 磨 耗	○	○	計 測
③ 腐 食	○	○	目 視
④ 形くずれ	○	○	目 視
⑤ 電弧又は熱影響	○	○	目 視
⑥ 塗油の状態	○	○	目 視
⑦ アイ部、圧縮止め部	○	○	目 視

◎ワイヤロープスリングにはロープグリースが塗布されております。グリースが飛散したり、滑ったりしますので注意して下さい。

◎長期在庫のセンターキャッチを使用する場合は、センターキャッチ本体及び吊具部分の状態をよく点検して安全であることを確かめて使用して下さい。

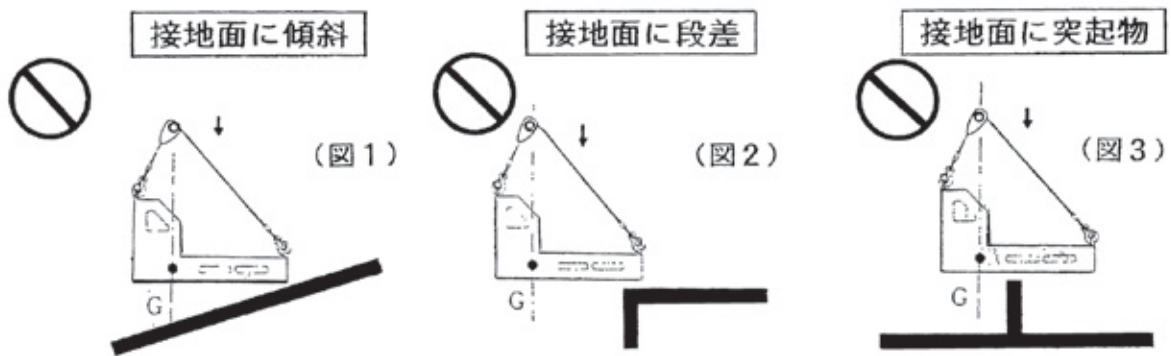
警告

取り扱いを誤った場合、使用者が死亡、または重傷を負う危険が高いと考えられる場合。

◎傾いた支持面（図1）や、不安定な支持面（図2及び図3参照）の上に荷をおろさないで下さい。

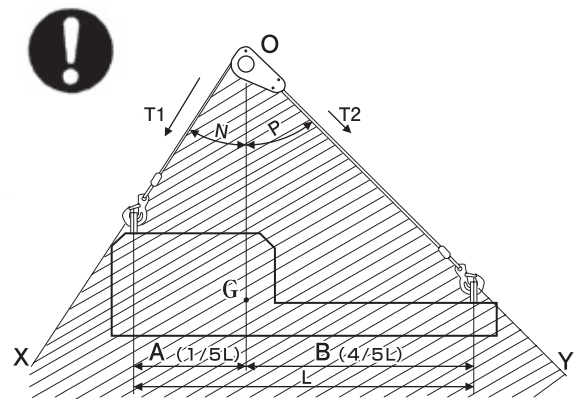
吊下げられている荷の一部が、不安定な状態のままで接地することにより、センターキャッチの組み込みワイヤに、弛緩作用が働き、ロックがかからない危険な様態になります。

しかしながら、支持面に特殊かつ的確な荷受け装置を取り付けた場合もしくは、これと同等以上の条件のもとでは、この限りではありません。



◎次の使用条件を常に、遵守して下さい。

- 1) 荷の重心は常にX O Yの内部に位置されなければなりません。
- 2) 不均衡（アンバランス）は決して4：1を超えないようにして下さい。
(例) A…………… 1 mの時
B最大量… 4 m



◎荷がセンターキャッチによって吊り上がっている時は以下の事はしては行けません。

◆荷を押ししたり、引いたりする事。

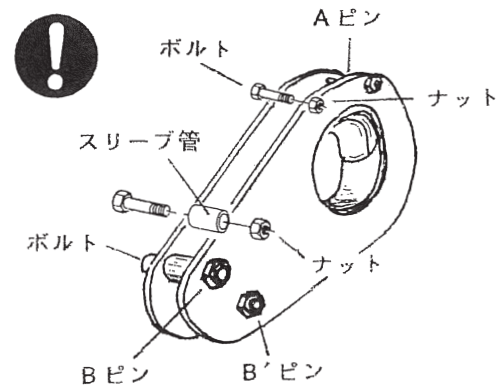
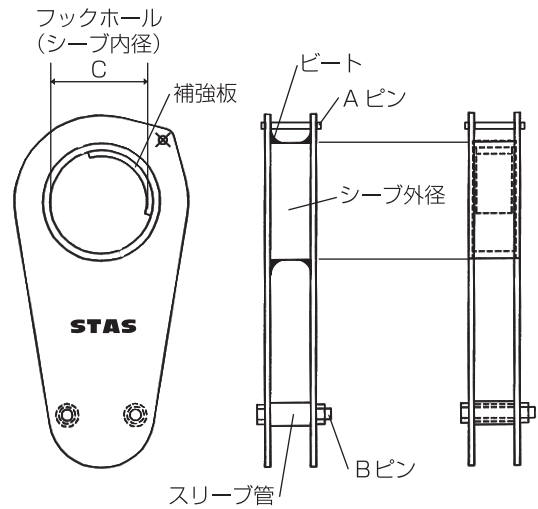
◆荷をゆらす事。

⚠ 注意

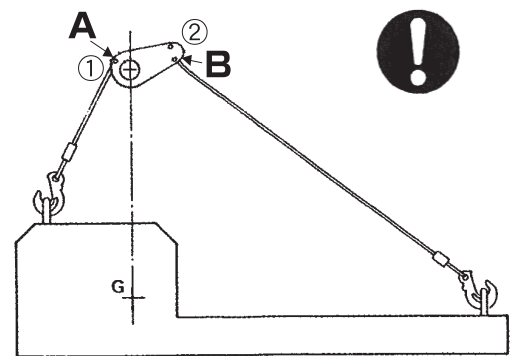
取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う危険が考えられる場合、及び物的損害のみの発生が考えられる場合。

◎センターキャッチの日常点検については、下記事項に注意をして下さい。

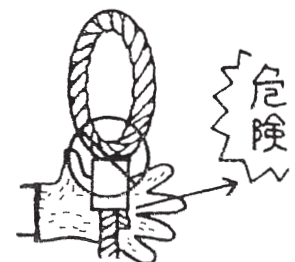
1. ワイヤロープスリングがロックされシーブ外径に最も応力が加わりますので、シーブ部の外径に摩耗傷が無い事。
2. シーブ外径及びフックホルルのシーブ内径と補強板の溶接部分（ビート）に亀裂、欠落又は摩耗が無い事。
3. 錆びの進行による素材の劣化が無い事。
4. 下部の2本のボルト、ピン、スリーブ管はワイヤロープのスリップを防止するブレーキの役目を果たしているので、折損、曲がり、緩みの無い事を確認して下さい。
5. 使用するフックの安全装置の欠落、フック本体に歪みがある場合は取替えて下さい。



◎通常荷の重い方へ（口）をセットしますが、図のように（イ）を重い方へセットして吊り上げた場合、（イ）（口）が水平もしくはそれ以上の位置で停止した時はBのピンに極端に荷がかかります。これはセンターキャッチの運動不足によって起こる現象（G点の真上までセンターキャッチが移動していない状態）ですから、一度荷を降ろしセンターキャッチを自由位にしてクレーンフック（センターキャッチ）を重い方に移動して下さい。そうする事により重心の真上にセンターキャッチが移動します。



◎ワイヤロープスリングのアイ圧縮部は、ロープの端部が出ています。必ず手袋をして取り扱って下さい。素手では負傷する恐れがあります。



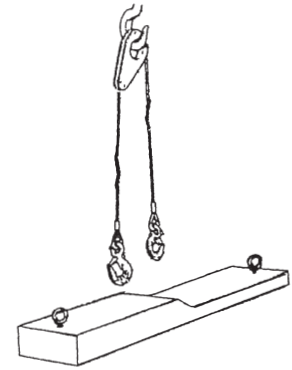
⚠️ 注意

取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う危険が考えられる場合、及び物的損害のみの発生が考えられる場合。



◎センターキャッチ使用前の注意事項。

センターキャッチのフックホールにクレーンのフックを掛け、一度クレーンを巻上げ、センターキャッチのワイヤロープスリングのよりを戻してから玉掛けをして下さい。



◎センターキャッチのワイヤロープスリングは、電気溶接作業時等でスパークさせないで下さい。強度が低下し危険です。

◎ワイヤロープスリングには、ロープグリースを塗布しています。吊り荷や衣類等の汚れに注意して下さい。



◎出来るだけ屋内に保管し、止むを得ず屋外に保管する場合は、シート等をかけて下さい。



◎下記のところでの保管は避けて下さい。

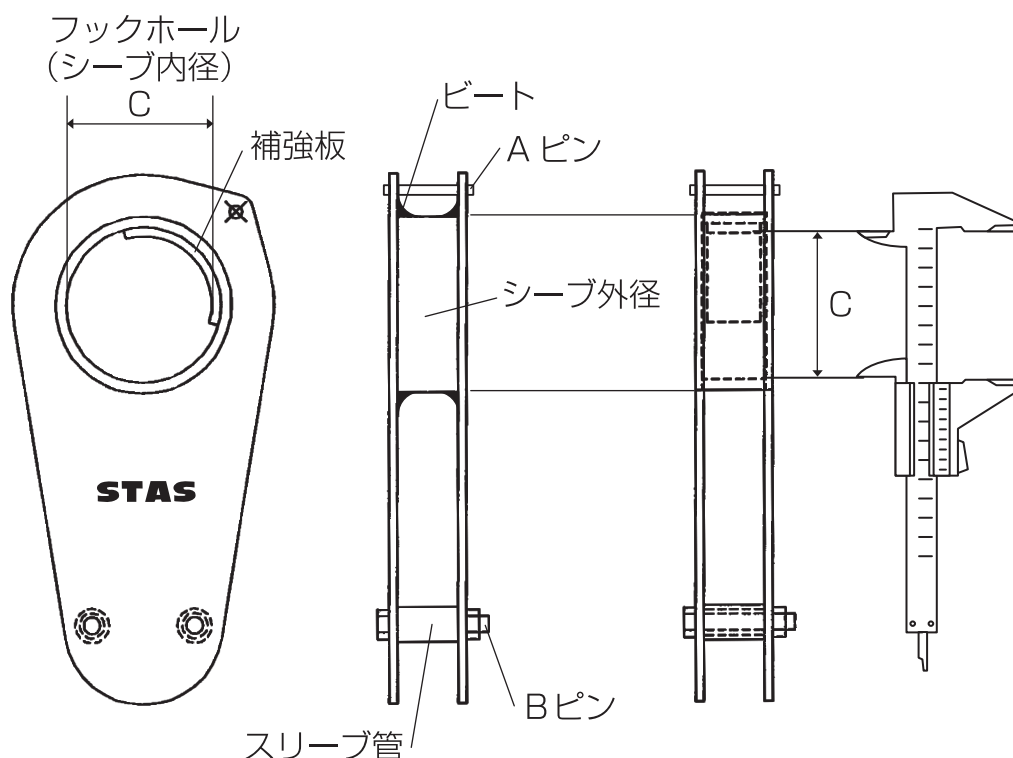
①湿気の多い所 ②高温の所 ③腐食雰囲気 ④雨、霧のかかる所



◎センターキャッチ及び使用のロープが地面から離れるようにして保管して下さい。

- 取り扱いの詳細については、センターキャッチの取扱説明書をお読み下さい。
- 本書の内容についてのお問い合わせは、最寄りの支店並びに営業所までお願いします。

センターキャッチ廃棄基準



- ① シーブ外径の表面にワイヤ摩擦による溝が生じた場合
- ② フックホールの補強板が摩耗等により減少し、フックホール標準径（C）が下記表以上に大きくなった場合
（フックホールの内径の補強板は耐久性を増すため厚めの材料を使用しております）

型 式	CTC-1	CTC-2	CTC-3	CTC-5	CTC-10	CTC-15	CTC-20	CTC-25	CTC-30	CTC-40	CTC-50	CTC-60
C フックホール径 (mm)	61	76	91	121	172	202	237	262	282	342	377	402

- ③ シーブ外径及びフックホールのシーブ内径と補強板の溶接部分（ビート）に亀裂、欠落又は摩耗
- ④ センターキャッチ本体の劣化、変形、極度の摩耗が生じた場合

カプラーを

安全にご使用頂くために必ずお読み下さい

本文中のマークは、次の意味を表わします。
(マークの周辺に具体的な内容が描かれています。)



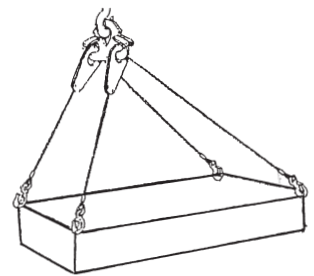
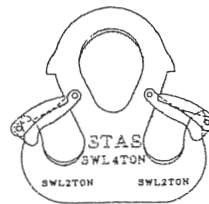
絶対に行ってはいけないことを表わすマークです。



必ず行って頂きたいことを表わすマークです。

カプラーは

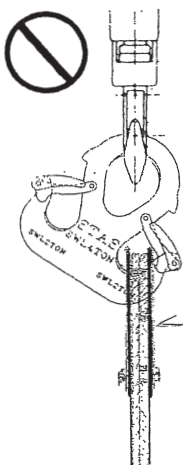
センターキャッチの4点吊りの場合に、
2台装着するための継ぎ手としてご使用
下さい。



警告

取り扱いを誤った場合、使用者が死亡、または
重傷を負う危険が高いと考えられる場合。

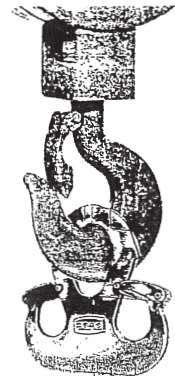
◎クレーンフックに合うかどうか確認が必要です。
クレーンフックが大きすぎ、カプラーが斜めにしか
セット出来ない場合は、カプラーをクレーンフック
に合うタイプに交換するか又は使用を避けて下さい。



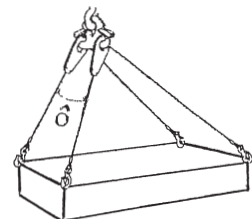
◎カプラーにセンターキャッチを
1台だけの装着は避けて下さい。
端部に応力がかかり強度が不足
して来て危険です。



斜めに入れる



◎カプラーにセンターキャッチを
装着した場合の張り角度 (δ)
はなるべく 45° 以内にして下
さい。



◎カプラーは、センターキャッチ専用に使われておりますので、それ以外には使用しな
いで下さい。

◎夫々のセンターキャッチの機種に合わせたカプラーをお選び下さい。

⚠️ 注意

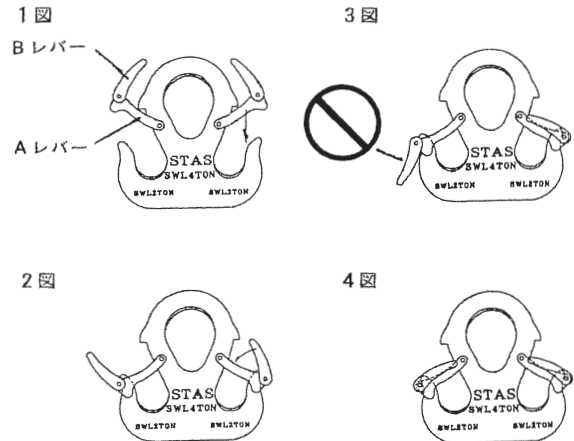
取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う危険が考えられる場合、及び物的損害のみの発生が考えられる場合。



◎カプラーの安全レバーのロックの仕方。

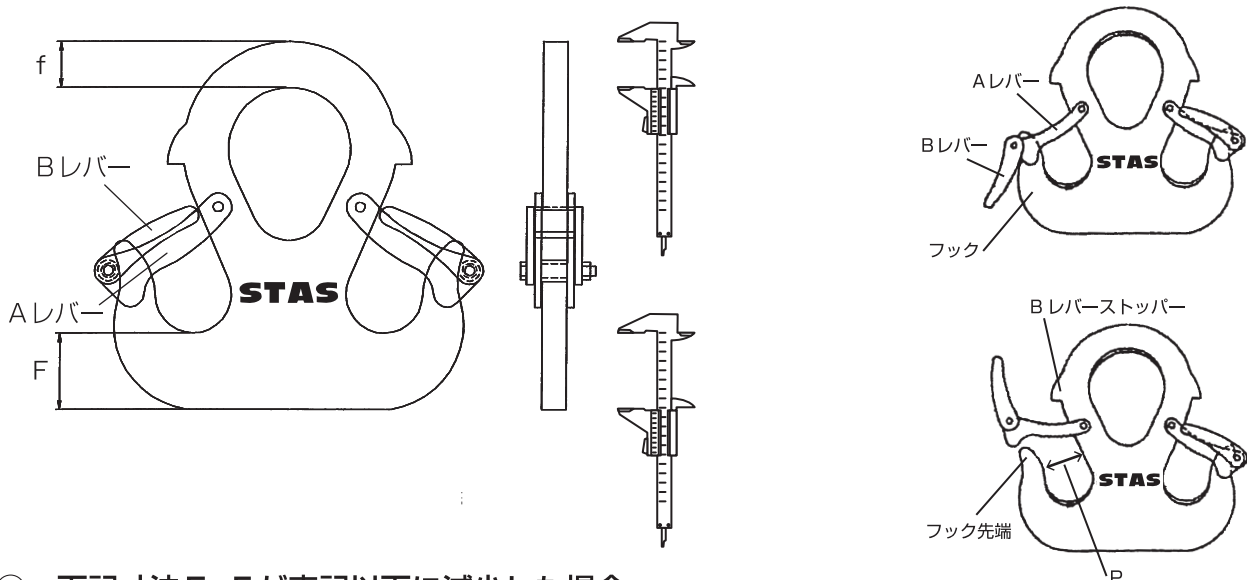
カプラーの安全レバー（はずれ止め）は、手動式のため、開閉は手動で行って下さい。

- 1 図 A・Bレバーを上へ上げ、センターキャッチを装着して下さい。
- 2 図 装着後、Aレバーを下ろし、Bレバーを内側に倒して下さい。
- 3 図 Bレバーがカプラーの側面に接触してレバーが動かなくなりロックが出来ます。
Bレバーを外側に倒すと、ロックが出来ませんのでご注意下さい。
- 4 図 これが完全な姿です。両方とも完全にロックされ、センターキャッチは外れる事はありません。



○ 本書の内容についてはお問い合わせは、最寄りの支店並びに営業所までお願いします。

カプラー廃棄基準



① 下記寸法E・Fが表記以下に減少した場合

	CP-1	CP-2	CP-3	CP-5	CP-10	CP-15	CP-20	CP-25	CP-30	CP-40	CP-50	CP-60
f (mm)	29	39	49	57	89	104	119	129	149	159	169	174
F (mm)	49	64	74	99	149	174	219	229	249	279	289	309

- ② Aレバー（正規の寸法時）がフック先端にセットできない場合
（フック間（P）が開いた状態で危険）
- ③ 本体が少しでも振れ、変形、劣化が生じた場合

Société Technique d'Accessoires Spécialisés



【本 社】〒854-0066 長崎県諫早市久山町973-1
[TEL] 0957-26-1771 [FAX] 0957-26-1701
[E-mail] info@stas.co.jp
【STAS東京】〒214-0012 川崎市多摩区中野島5-6-24
[TEL] 044-933-7397 [FAX] 044-933-8497
[E-mail] stas.tyo-mk@mist.ocn.ne.jp